

日常脱出マニュアル

～これからのエコとおカネと就職の話

21世紀の「エコ」資本論？

一人が動く 社会は変わる

安ければ、儲かれば
それでいい？

What's Next?

回座を変えれば世界が変わる

「日常脱出マニュアル〜これからのエコとおカネと就職の話」を手にとってくださってありがとうございます。このマニュアルは主に18歳〜30歳くらいの若者で、環境問題(エコ)や社会・経済問題(おカネ)に関心がある人や、そういった社会課題について取り組みたい、ライフワークとして仕事にしたい人のための参考のマニュアルです。作っているのも同世代の若者です。日本の、そして世界の未来を切り拓くのは若者であると信じて、国際青年環境 NGO・アシードジャパン(事務所・東京都新宿区)が製作しました。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されたその後、私たち「若者の未来」はどのように変容しているのでしょうか?グローバル化と情報化によって、技術が「日進月歩」どころか「分進秒歩」で変わっていく現代は、若者にとってますます未来が予測しづらい時代になっています。まずは気になるデータをいくつか紹介します。

- 「2025年以降は東京都も人口減少期に入り、4人に1人が65歳以上に。非婚化・晩婚化で単独世帯は2020年には45.3%まで上昇。35〜39歳の男女の未婚率は2010年でそれぞれ35%と22%まで増加すると予測される」(日本経済新聞社「東京・首都圏はこう変わる!未来計画2020」)
- 「アメリカは上位10%の人が国全体の5割近い所得を占めている(日本は4割)」「資本主義では、格差が必ず拡大する。格差を縮小するためにはグローバル資本課税を導入すべき(フランスの経済学者、トマ・ピケティ「21世紀の資本」が投げかけた公式「 r (資本収益率) > g (経済成長率)」は世界中で議論に)
- 「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」「ITの進化で、今ある仕事の50%が20年後に消えてしまうかもしれない」(米国のデューク大学研究者であるキャシー・デビッドソンが2011年にニューヨークタイムズに対して語った言葉)

非正規雇用・格差の増大、人口減・少子高齢化がますます進む反面、ITやロボット、医療や娯楽のテクノロジーの進歩がいよいよ加速しています。このようなライフスタイルや価値観の多様化、経済・社会のグローバル化は、はたして若者に「笑顔あふれる未来」をもたらすのでしょうか?別なデータも紹介します。

- 「日本の2012年衆議院選挙の20歳代の投票率38%(2013年参議院選挙で33%)に対し、2010年スウェーデン総選挙の18歳から29歳のスウェーデンの若者の投票率は79%」(内閣府の子ども・若者白書)
- 日本の若年層(15〜39歳)の死因1位は「自殺」。若い世代で死因の1位が自殺というのは、先進7カ国(G7)では日本だけ。背景にははじめ、就職難、生きづらさなどがある。」(ニッポン・ドットコム)
- 「日本の借金(普通国債の発行残高)は、ついに1,000兆円を突破。私たちの家計あたりの負担額は1972万円とも。返すメドすらたたぬこの借金はすべて私たちの子孫のツケに」(経済ジャーナリスト財部誠一「日本の借金時計」)

私たち若者の日常と、その先にある未来について、このままでいいのか?何とか「日常脱出」して、その先にある未来を切り拓くために、日常のライフスタイルのうち「モノ・カネ・情報」の3つのスタイルを磨くこと。それがこの冊子のテーマです。

とくに「おカネに意志をこめること」について、日々の実践に役立つ視点とステップをわかりやすくまとめました。一人でも多くの若者に読んでいただき、新たな一歩を踏み出すためのヒントに役立てていただけますことを願っています。



はじめに ～ワカモノ×ミライを切り拓く 02

目次 03

●日常脱出マニュアル・ステップ1 04

「モノ・カネ・情報のライフスタイル自己診断」 05

情報のスタイルを磨く!～メディア編 06

モノのスタイルを磨く!～食卓・買い物編 08

カネのスタイルを磨く!～金融・経済編 10

●日常脱出マニュアル・ステップ2 12

「お金に意志をこめる『フェア・ファイナンス』入門」

～グローバル編 12

～ローカル編 14

～データ編 16

あとがき ～都市に生命を、地域に愛を 18



暴力をふるうのではなく、できるだけ注意して自然のいとなみを望ましい方向に導くことこそ、私たちの目的でなければならない。

レイチェル カーソン「沈黙の春」より

モノ・カネ・情報のライフスタイル自己診断シート

[ミライフ・ポイント・チェック]

私たちの暮らしは、モノ(資源)・カネ(金融)・情報(メディア)の生産と消費によって成り立っています。日々入ってくる情報をもとに判断し、おカネを使って生活をしている以上、「どのようなメディアからの情報で判断し、いくらを何に使うのか」ということは、私たちの日常すべてにわたって重要なことと言えます。何を生業としてお金を稼ぎ、日々の食卓で何を食べ、何を買い、そしてどの金融機関に預けるか、ということで、**経済に影響を与えます。**

まずはこの「モノ・カネ・情報のライフスタイル自己診断シート」で、あなたの「これからのエコとおカネと就職の話」を考えるための現状を分析してみましょう。これは「ミライフ・チェック」と呼ばれるもので、国際青年環境 NGO・アシードジャパンが 150 名を超える環境活動家・企業家・政治家・エコ社会人を輩出してきた 23 年の活動データを結集して開発した「**環境就職のためのツール**」です。「Yes・No」形式の 30 問の設問から構成されています。数字の高い低いに関係なく、モノ・カネ・情報のライフスタイルを考えるための「気づき」を提供するものとなっています。

〔How to 自己診断〕

- 1 「Yes」か「No」か、感じるままにチェック。
- 2 情報・モノ・カネ、それぞれ「Yes」の小計を記入。
- 3 3つの「Yesの小計」の数字の合計を記入。
- 4 「偶数の設問のNoの合計」を記入。
- 5 「Yesの合計」から「偶数のNoの合計」を引いた数が、あなたの「ミライフ・ポイント」です。

ミライフ・ポイントは最少マイナス 15 から最大プラス 30 のいずれかになります。この数字は現時点でのあなたの「NPO 就職への適正」を表します。数字はあくまで参考に過ぎません。次ページから各設問の「おすすめメルマガ」を紹介しています。(登録無料、退会自由)全部で 30 種類ありますが、関心あるメルマガの登録を推奨しています。このメルマガを活用することで、ミライフ・ポイントを上げる事が出来ますので、ぜひ関心ありそうなものを利用してください。



モノ・カネ・情報のライフスタイルをセルフチェック!
迷った時は「No」!



情報のスタイル

- | | | | |
|----------------------------------|-----|---|----|
| 1 原発事故が起きた1か月、報道には振り回されなかった | Yes | / | No |
| 2 「半農半X」なライフスタイルの情報を受け取っている | Yes | / | No |
| 3 12歳くらいの子供に「良い報道」を教えてあげられる | Yes | / | No |
| 4 メディアはダメな政治家も仕事している政治家も報じてほしい | Yes | / | No |
| 5 すぐれていると思った報道番組を1つ以上あげられる | Yes | / | No |
| 6 メディアについてソーシャルメディアなどでモノ申したことがある | Yes | / | No |
| 7 応援したいメディアにはちゃんとおカネを払いたい | Yes | / | No |
| 8 優れたNPOの無料メルマガなら知りたいし、登録したい | Yes | / | No |
| 9 テレビ企業には広告収入について情報公開を求めたい | Yes | / | No |
| 10 もっとNPOの有識者を報道番組に登場させたい | Yes | / | No |

カネのスタイル

- | | | |
|-------------------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| | Yesの数 <input type="text"/> | 偶数(右側)のNoの数 <input type="text"/> |
| 1 これからは「持続可能な経済」を考えるべきだと思う | Yes | / No |
| 2 人口も経済成長もマイナスになっても幸せな社会を作れると思う | Yes | / No |
| 3 自分の預貯金が原発建設に使われたらイヤ | Yes | / No |
| 4 自分のおカネが生命を愛する取り組みに使われたらウレシイ | Yes | / No |
| 5 12歳くらいの子どもに銀行の仕組みをそれなりに説明できる | Yes | / No |
| 6 12歳くらいの子どもに生協などの協同組合の仕組みを一応は説明できる | Yes | / No |
| 7 世界中で多くの子どもが助かるはずの理由で死んでいる事が悲しい | Yes | / No |
| 8 出資で未来を変えられる「NPOバンク」について知りたい | Yes | / No |
| 9 「グッズ減税・バズ課税」について聞いたことがある | Yes | / No |
| 10 「派遣切り」「名ばかり店長」「シャッター街」みんな何とかしたい | Yes | / No |

モノのスタイル

- | | | |
|-----------------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| | Yesの数 <input type="text"/> | 偶数(右側)のNoの数 <input type="text"/> |
| 1 年に一度は田んぼや畑で大地と農作物に直に触れている | Yes | / No |
| 2 「ヴァーチャルウォーター」の意味を知っている | Yes | / No |
| 3 原子力発電の問題を考えるイベントに行った事がある | Yes | / No |
| 4 100円ショップだらけになったら怖いと思う | Yes | / No |
| 5 ケータイ買い替えの際は、できるだけリサイクルしている | Yes | / No |
| 6 農村の暮らしを楽しんでいる友達がいる | Yes | / No |
| 7 人口の2割が富の8割を所有する「富のワイングラス」を知っている | Yes | / No |
| 8 顔の見える安心な農産物を身近に買えるようにしてほしい | Yes | / No |
| 9 放射能被害に悩む福島について、現地の人を応援している | Yes | / No |
| 10 地元の学校給食に有機農産物が使われているか気にしている | Yes | / No |

Yesの数 偶数(右側)のNoの数

Yesの合計 - 偶数(右側)のNoの合計 = ミライフポイント

情報のスタイルを磨く！～日常脱出マニュアル・メディア編

ライフスタイル自己診断シート、最初の10問は「情報スタイル」です。社会の情報システム、あるいはメディアとは、社会の「未来」を選択する際の「地図」と言えます。地図に適切な情報が書かれていなければ、進路を選択することも、目標にたどり着くこともできません。「どのようなメディアからの情報で判断するか」を改めて見直してみましょう。

明治時代以降、日本の新聞は国や行政や経済界の動きを迅速かつわかりやすく伝える役割を担ってきました。宅配制度、クロスオーナーシップ、記者クラブといった日本独自の堅固な「メディア帝国」を築いてきたわけですが、今や若者を中心に新聞離れ・メディア離れが進み、ほとんどの世帯が新聞を購読していた1997年の5877万部をピークに、減少の一途をたどっています。代わりにインターネットメディアが多様化し、「無料で情報を得る」文化が広がってきました。2020年以降は、マスメディア、ネットメディア、そして市民メディアを使いこなす「メディアリテラシー」の力がますます問われる時代になると予想されます。新聞は読むべし。さらに優良な専門誌も読むべし。偏った市民メディアも読み解くべし。テレビのトレンドも知っておいて損はないでしょう。

日常脱出マニュアルでは、300以上の多様な「NPOメルマガ・市民メディアメルマガ」の中から、アシードジャパンが厳選した30種類を紹介しています。最終的には「優良な有料メディア」を使いこなすリテラシーを身につけ、メディアにモノ申せる若者になることを理想としています。

1 原発事故が起きた1か月、報道には振り回されなかった

東日本大震災の原発事故発生以降、多くの情報が覆い隠されようとする中で、市民メディアや独立系ジャーナリスト、脱原発に取り組む提言型NPOが本領を発揮して、事実を伝えたといえます。報道に振り回されないために日頃からそうした市民メディアによる報道にアンテナを張り、マスメディアとの違いのわかる若者を目指しましょう。

おすすめメルマガ1 「eシフトお知らせ」 登録：<http://e-shift.org/>

2 「半農半X」なライフスタイルの情報を受け取っている

多様な地域の伝統的食文化や、農薬・化学肥料に頼らない有機農業の番組は、製作費も高く、広告主もつかず、番組制作側としてはコストに見合いません。日本の有機農業が1%にも満たないまま40年もたっているのは、そんなテレビの罪もあるのかもしれませんが。

塩見直紀さんが提唱する「半農半X」は、農的暮らしをしながら天職を楽しむ生き方をしよう、という意味ですが、農的暮らしを社会に根付かせるためにも、そういうメディアを応援しましょう。

おすすめメルマガ2 Greenz.jp (グリーンズ) 登録：<http://greenz.jp/mailmag/>

3 12歳くらいの子供に「良い報道」を教えてあげられる

マスメディアに対して批判の声を上げている人の多くは、マスメディアを辞めたフリーランスのメディアの人だったりします。本来は、読者・視聴者が自分で調べ、自分で考えてこそ「自分にとっての良い報道」が見えてくるのではないのでしょうか？ぜひ子どもたちと一緒に「読者・視聴者の立場」から考えてみませんか？

おすすめメルマガ3 OurPlanet-TV メールマガジン 登録：<http://www.ourplanet-tv.org/>

4 メディアはダメな政治家も仕事している政治家も報じてほしい

視聴者にとって益となるのは「どの政治家が仕事をしていないか」だけでなく、「政治家がすべき仕事は何か」を報じるメディアではないのでしょうか？もちろん新聞やテレビはその役割を担っていないわけではありませんが、一方でたとえば遺伝子組換え問題や携帯電磁波問題など、全く扱わないテーマがあるのも確かです。政局報道に使う時間と労力の半分を、推進すべき政策の報道に使うメディアがあったら良いと思いませんか？

おすすめメルマガ4 言論NPO メールニュース 登録：<http://www.genron-npo.net/post-3.htm>



5 優れていると思った報道番組を1つ以上あげられる

「すぐれた民放の報道番組なんてあるの?」と驚く人が沢山います。すべての番組を視ることは出来ませんが、たとえばフジテレビでは、毎週土曜日朝5時に「新週刊フジテレビ批評」という自社検証番組を1時間、生放送で放送していて、他局に比べ評価できます。公共放送であるNHKと違い、広告で成り立つ民放の報道番組であるからこそ、世間一般の人々が社会参加意識を持ち、報道の質についてしっかり声を上げる事が重要です。

おすすめメルマガ5 UPLINK news 登録: <http://www.uplink.co.jp/news>

6 メディアについてソーシャルメディアなどでモノ申したことがある

現代の言論空間は匿名・実名に関わらず批判や否定が多く、自由かつ建設的な議論がなかなか持てません。せっかくfacebookやTwitterがあるので、メディアに対して良い報道は良かった、悪い報道はどうすれば良くなるか、当たり前前にモノ申せる社会にしたいものです。報道制作者にとって、そうした声なくして、**骨太な報道を続けるのは至難の業**です。ぜひ「この報道はここが良かった。頑張ってください!」「この報道はここが悪かった。もっとこういう視点や有識者がいいのでは?」といったつぶやきをぶつけていきましょう。

おすすめメルマガ6 マガジン9NEWS 登録: <http://www.mag2.com/m/0000159306.html>

7 応援したいメディアにはちゃんとおカネを払いたい

無料のニュースには広告主がついていて、「広告収入を上げる」プレッシャーが働いています。取材・編集をして、読者・視聴者の元へと届けるための経費が、視聴者の寄付や購読料であるか、広告料であるかは大きな差があります。志あるジャーナリストやメディアには、まっとうな「ニュースの値段」を、志ある読者・視聴者が払う必要があります。

アワプラネットTV・IWJ・デイズジャパン・ビデオニュースドットコムなど、寄付・購読料で成り立つ報道型市民メディアは、「マスメディアが報じない事実を報道する」「市民が情報の発信者になる」といった使命を掲げています。

おすすめメルマガ7 Greenpeace Japan 登録: <http://www.greenpeace.org/japan/ja/support/magazine/>

8 優れたNPOの無料メルマガなら知りたいし、登録したい

提言型NPOと市民メディア。この二つを使いこなす読者・視聴者が増える事が、その国のメディアの質を左右するといっても過言ではないでしょう。(環境・開発・人権の分野で国際的に有名な政策提言型NPO: アムネスティ、アジア太平洋資料センター(PARC)、オックスファム、「環境・持続社会」研究センター(JACSES)、気候ネットワーク、グリーンピース、原子力資料情報室、A SEED JAPAN、FoE、WWF、等。)

おすすめメルマガ8 国際協力NGOセンター・メールマガジン 登録: <http://www.janic.org/mailmagazine/>

9 テレビ企業には広告収入について情報公開を求めたい

「報道」は一つの商品。それがどのように取材され、加工され、どこの誰によるいくらの広告費で制作されているのか、そうした情報は公開されているでしょうか? **広告費の流れを把握するという事は、何が報道されにくいかを知ることに繋がります。**そうして初めて、社会的なテーマを扱う報道番組に広告を出そう、という「CSR スポンサー」という考え方も生まれてきます。社会的責任を果たし、視聴者・広告主の信頼を得るために、CSR報告書という形で広告費や報道実績について情報公開を求めたいものです。

おすすめメルマガ9 『週刊金曜日』メールニュース 登録: http://www.kinyobi.co.jp/mail/mail_index.php

10 もっとNPOの専門家を報道番組に登場させたい

原発事故を受け、環境エネルギー政策研究所(ISEP)の飯田哲也氏や、原子力資料情報室に協力している後藤政志氏のテレビ出演が一時は飛躍的に増えました。複雑化、多様化、深刻化する環境問題について、**提言型NPOとマスメディアが協働して調査報道の質を高める事は、視聴者にとっても、社会的課題に取り組む企業にとっても有益なのではないでしょうか。**

おすすめメルマガ10 田中優メルマガ(無料版) 登録: http://tanakayu.blogspot.jp/2011/12/blog-post_29.html

モノのスタイルを磨く！～日常脱出マニュアル・食卓・買い物編

ライフスタイル自己診断シート、次の10問は「モノ・スタイル」です。食事にはその人の性格、育ち、哲学、生き方すべてが現れます。フランスの料理人ブリア・サラヴァンの「20の箴言」のひとつに「君の食べている料理をいって見たまえ。君の人物を当ててみせよう」という言葉があります。

1961年、農業基本法の成立以来、日本は国策として「1000万円の所得を得る農業(8ヶタ農業)」をめざし、単一化・大規模な農業を奨励してきました。しかしその結果は生産者にとっても消費者にとっても「やせ細る農業」でした。食料自給率は8割から4割へ、農業総産出額は11兆7千億から8兆5千億へ、農地面積は600万ヘクタールから450万ヘクタールへと減少しています。美しい田園風景や生き物たち、郷土料理や農村文化をこのまま失うのは、未来の子どもたちがあまりに不幸です。

問題は「農業の価値を知り、再生産可能なまっとうな価格を払う消費者」が、わずか5.4%しかいないといわれていることです。健康志向の消費者は16.5%。(徳野貞雄・著『農村の幸せ、都会の幸せ——家族・食・暮らし』2007)これまで私たちは、目の前にある大きな利益を求めて経済成長にまい進してきたといえます。しかし、目先の金銭的利益は少なくても、生きていくために必要なもの、つまり食料、エネルギー、医療について、自然を損なうことなく自給できる地域がどれくらいあるか、それがこれからの「豊かさを測る指標」の中心になるべきでしょう。そうした価値転換の中、生産者と消費者の関係も見直すべき時が来ています。

1 年に一度は田んぼや畑で大地と農作物に直に触れている

自然に触れ、食べ物の生産の現場に触れることをせず、自然の大切さを知ることのない人を増やし続ける仕組みをこの200年、増やしてしまった!ということに気付くことが最初の一步。食べ物を捨てすぎる国の不健康な働きバチになっていませんか?今地域で新しく「有機農業を軸とする地域づくり」を進めているのは、そのような生活に疑問をもった人たちです。

おすすめメルマガ1 トージバ 登録: <http://www.toziba.net/>

2 「ヴァーチャルウォーター」の意味を知っている

忘れていませんか?「水はすべての命の源であり、生きていくのになくってはならないもの」ということを。今、水を大事にできない人が増えています。バーチャルウォーター(仮想水)とは、作物を栽培し加工し、食卓に届けるまでにかかる総水量のこと。例えば、ステーキ200グラムを食卓に届けるのに必要な水は約4トン。牛丼1杯で約2トン。毎年海外から日本へ輸入される仮想水の量は600億立方メートル以上と言われ、日本国内で年間に使用される水量の約7~10割とも言われます。

おすすめメルマガ2 Think the Earth Paper 登録: <http://www.thinktheearth.net/jp/mailnews/>

3 原子力発電の問題を考えるイベントに行った事がある

震災と原発事故により、放射能と向き合っていかなければならない時代になりました。「Not in my backyard(うちの裏庭にはゴメンです)」と、それでもなお言い続けるよりも、放射能を管理する方法と安全なエネルギー供給の方法を考えることが大切です。そうしてあなたも、再生可能エネルギーを生み出す側へ気持ちよく踏み出しましょう。

おすすめメルマガ3 原子力情報宅配便“CNIC EXPRESS”(原子力資料情報室)
登録: <http://www.cnic.jp/mailmaga>

4 世界中が100円ショップだらけになったら怖いと思う

価格や雇用において「底辺への競争」が起こっています。日本も例外ではなく、中国産の100円均一商品に対抗するために、日本の工場でも採算を度外視した生産をせざるを得ない状況があります。しかしモノには真実な値段というものがあるはず。さらに、値段は二倍でも価値は三倍、十倍、というものが地産地消な暮らしの中にはあるのです。

おすすめメルマガ4 通販生活(カタログハウス) 登録: <http://www.cataloghouse.co.jp/ap/mailmag>



5 ケータイ買い替えの際は、できるだけリサイクルしている

映画「ブラッドダイヤモンド」をみて、「紛争鉱物」という問題にも目を向け、「強欲な経済」を知りましょう。不公正な経済を支えるのは消費者の無知と無言。携帯電話の材料である鉱物を採掘するために壊されているコミュニティや命について考え、消費者と企業のエシカルを進めましょう。アシードジャパンではエシカルケータイを進めて資源採掘国の人権・環境保護に役立っています。

おすすめメルマガ5 エシカルケータイキャンペーン 登録：<http://www.ethical-keitai.net/>

6 農村の暮らしを楽しんでいる友達がいる

「地域営農」という言葉があります。農家は農産物を作っているのではなく、生命の力を引き出す土や水、山、生態系、生活空間を作っています。その仕事は、子どもからお年寄りまでを巻き込んだ、地域での共同作業によって成り立っています。その中でも有機農業は2006年に施行された「有機農業推進法」によって、全県および市町村の18%以上においても推進計画が立てられ着実に広がりを見せています。有機農業は最大の未来創造。そうした暮らしを先取りしているあなたの友達は「スゴい」のです。

おすすめメルマガ6 ふるさと回帰支援センター「ふるさと暮らし通信」 登録：<http://www.furusatokaiki.net/>

7 人口の2割が富の8割を所有する`富のワイングラス`を知っている

アメリカの経済誌『フォーチュン』によると、2011年度世界売上高ランキングは1位のウォールマートを筆頭に、ロイヤルダッチシェル、エクソンモービル、BP、中国石油化工、中国石油天然集团公司、トヨタ自動車、日本郵政、シェブロンだそうです。富の集中がさらなる富を生み、貧しい人はさらに貧しくなる現実を知り、「地域の豊かさなくして成長なし」と悟りましょう。

おすすめメルマガ7 ファンドレイジング道場 - 黒帯への道 - 登録：<http://fundrex.co.jp/info/magazine.html>

8 顔の見える安心な農産物を身近に買えるようにしてほしい

環境にも優しく、地域も元気にするのに、生産面積において1%に満たない日本の有機農業。オーガニックライフはお金と知識のある環境意識の高い「エコセレブ」のものとして揶揄されています。ファーマーズマーケットや「地域が支える有機農業(CSA)」に参加して、有機の糧をいただきながら変えていきませんか?

おすすめメルマガ8 アースデイマーケット通信 登録：<http://www.earthdaymarket.com/mailmagazine/>

9 放射能被害に悩む福島について、現地の人を応援している

東北の頑張りを、支える責任が東京にはあります。今、放射能を正しく知り、最大の再生を目指すために一人でも多くの人が当事者として取り組むことが、何よりも未来につながっていくのではないのでしょうか。放射能を「避難するため」に測る人、「克服するため」に測る人、共に手を取り合ひましょう。

おすすめメルマガ9 福島と生きる 登録：miekof@hotmail.com に「メールニュース希望」と送信

10 地元の学校給食に有機農産物が使われているか気にしている

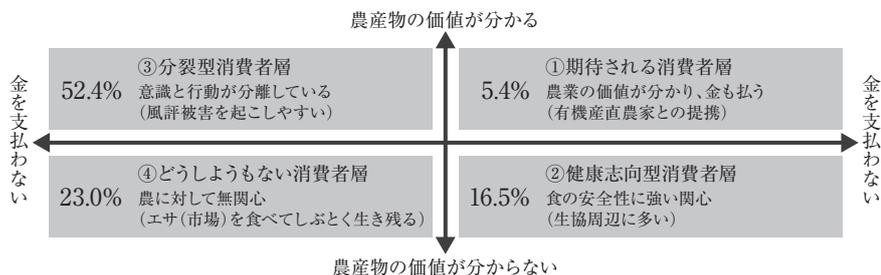
「命を大事に」とはどういうこと?—それを教えてくれるのが、子どもの頃の食生活。その中でも給食を見れば、その地域の50年先の未来が見えます。「子どもには一番良い食べ物を」という気持ちを大事にできないで、どんな未来が待っているでしょう?食べ物、エネルギー、医療介護、この3つは、未来を図る指標なのです。学校給食は、その大事なひとつです。

おすすめメルマガ10 日本有機農業研究会メールニュース 登録：<http://www.joaa.net/magazine/mailnews.html>

[参考]

(徳野貞雄・著『農村の幸せ、都会の幸せ—家族・食・暮らし』2007)

消費者の四類型



カネのスタイルを磨く！～日常脱出マニュアル・金融・経済編

ライフスタイル自己診断シート、最後の10問は「カネ・スタイル」です。お金は預けたらそのまま、と思っていませんか。あなたが金融機関に預けたお金は、ただ口座に眠っているわけではありません。こんな未来であってほしい、そんな思いをお金に込めることができるのです。情報のスタイルを磨いてメディアリテラシーを高め、モノのスタイルを磨いて日々の選択を「よりよい未来」につなげるものへと変える。そのための武器となるのが「おカネ」です。

世界ではUNEP(国連環境計画)が、持続可能な社会の金融機関が最低限守るべき指針「国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP・FI)」を策定し、日本でも「持続可能な社会に向けた金融行動原則」に現在180以上の金融機関が署名しています。地域においては地域金融機関とNPOバンクが協働で「お金の地産地消」を推進する事例が増えています。背景にあるのは人口減・少子高齢化、コミュニティの崩壊、行政サービスの低下、若者・こどもの生きづらさの問題など「課題先進国」とも呼ばれる状況です。NPO・市民社会への「担い手」としての期待が高まっている反面、それを支える「志のお金=志金」の不足が顕在化しています。

金融・経済は「社会の血液」に例えられます。「安ければ、儲かれば、それでいい？」この問いの答えを自分ゴトとして持つこと。「おカネ」に支配されるのではなく、「おカネ」に意志をこめること。来るべき低成長・マイナス成長社会において、「格差が広がり自殺する若者が増える未来」ではなく、現代の「生きづらさ」の荒波を乗り越え、「都市と地域の連帯を通して若者が笑顔を生み出す未来」へと転換するために、「エコとおカネ」を見つめなおしましょう。

1 これからは「持続可能な経済」を考えるべきだと思う

持続可能な経済のあり方として提案される「グリーンエコノミー」とは、一般には環境や社会への負の影響を減らし、正の影響を増やす経済のあり方を指す言葉であるといわれています。具体的には米国、中国、EUなどが掲げる環境経済政策、とくに雇用振興策を意味することが多いようです。先進国と新興国・途上国それぞれで立場が異なり、目的も「経済成長の持続可能性」なのか「生命全体の持続可能性」であるか、しっかり見極める必要があります。

おすすめメルマガ1 オルタナ編集長メルマガ 登録：<http://www.alterna.co.jp/meruma/>

2 人口も経済成長もマイナスになっても幸せな社会を作れると思う

農村では、地域の人びとの間で野菜や調味料を交換したり、田畑を共同で管理したりしています。それらはGDPには反映されず、今の「豊かさの測り方」では見えないものです。生活に必要な物資や福祉を、市場からではなく人と人の繋がりから得ることができれば、経済成長がなくても安心して暮らすことができるでしょう。国民一人一人が金銭的な所得とは別の部分に喜びや安心を見つけることで、幸せな暮らしを送ることが出来るのです。

おすすめメルマガ2 小川町まっぷ(生活工房つばさ游) 登録：<http://tubasa-u.com/activity/mm.html>

3 自分の預貯金が原発建設に使われたらイヤ

金融機関は原子力発電所を使用している電力会社に融資を行っているほか、大株主でもあります。日本の3大フィナンシャルグループ(みずほFG、三井住友FG、三菱東京UFJFG)は、東京電力に約6900万ドル、関西電力に約450万ドルの融資を行っています(2010年3月)。東日本大震災後、膨らむ賠償費用、廃炉予算、安全対策などは、原子力損害賠償支援機構を設立して救済し、さらに電気料金にも転嫁することで対応しているのが現状です。

おすすめメルマガ3 SIF ジャパンメルマガ(社会的責任投資フォーラム)
登録：<http://www.sifjapan.org/mailmagazine/>

4 自分のおカネが生命を愛する取り組みに使われたらウレシイ

農家で採れた野菜をいったん市場に集めてスーパーに運送する、つまり「流通」を介した場合、農家が得られるのは販売価格の60%ほどに減りますが、直接消費者に販売すれば、そのほとんどが収益となります。消費者はより新鮮な野菜を安く手に入れることができますし、生産者と直接話すことができるので安心です。今、地方にも都市にも、生産者と消費者をつなぐ場が増えてきています。ぜひ、あなたの町に一番近いファーマーズマーケット(農家市)を探してみたいかがですか？

おすすめメルマガ4 ソーシャルジャスティス基金メルマガ 登録：<http://socialjustice.jp/>



カネのスタイルを磨く！～日常脱出マニュアル・金融・経済編

5 12歳くらいの子どもの銀行の仕組みをそれなりに説明できる

銀行とは「お金を必要としているところへ流す(融通する)仕組み」です。銀行は私たちの預けたお金を使って、企業や事業、政府などに投資・融資をしています。しかしそのお金は、環境や社会にとって望ましくない事業に使われてしまうこともあります。私たちが普段預けたりおろしたりするおカネの使われ方を知ることがとても大切なことなのです。

おすすめメルマガ5 エコ貯金メルマガ 登録：http://melma.com/backnumber_136120/

6 12歳くらいの子どもの生協などの協同組合の仕組みを一応は説明できる

生協(生活協同組合)とは協同組合の一つ。組合員同士で同じサービスを受けようとするを目的に作られた組織で、**利潤の追求は目指しません**。最近では、組合員以外のすべての人びとにも必要なサービスを提供する——「公益」「公助」の担い手となる必要がでてきていると考えられています。(おすすめ図書：西川潤『連帯経済—グローバル化への対案』明石書店、2007年)

おすすめメルマガ6 生活旬報(生活クラブ生協連合会) 登録：<http://www.seikatsuclub.coop/magazine/>

7 世界中で多くの子どもの助かるはずの理由で死んでいる事が悲しい

アフリカ(サハラ以南)では、1000人のうち174人の子どもが5歳になる前に亡くなります。(先進国では1000人中7人)。その理由の一つに、**多大な債務返済のために、教育や福祉、日用品や農業への予算を削減してしまうという構造**があります。例えばアフリカでは1970年から2002年までに、利子を含め5400億ドルを借り、約5500億ドルを返済しています。

巨大な債務の背後には、先進国が途上国におカネを貸付け、様々な開発プロジェクトを行ってきたという経緯があります。

おすすめメルマガ7 なんとかしなきゃ 登録：<http://nantokashinakya.jp/mailmag/>

8 出資で未来を変えられる「NPOバンク」について知りたい

NPOバンクとは、市民の出資を原資として社会的に必要な事業に融資をする金融機関です。その特徴は、地域に根ざしていることはもちろん、出資者と融資先とが交流できる場を提供するなど、**地域の中でおカネの流れが目に見える仕組み**を造っていることです。一口数万円からの出資で、安心して暮らせる社会をつくる人たちを応援しながら、一緒に地域づくりに参加をしてみませんか？

(全国NPOバンク連絡会：<http://npobank.net/>)

おすすめメルマガ9 信頼資本財団メールマガジン 登録：<http://www.shinrai.or.jp/info/cat88/post-24.html>

9 「グッズ減税・バズ課税」について聞いたことがある

環境を守るため、ごみの削減や節電をより多くの個人や企業が行動に移すには何が有効でしょう？それを解決するのが税金・補助金です。道路を造り続けるためのガソリン税、農薬や化学肥料を売るための農業補助金、海や森を壊して開発を進める税金・補助金のあり方に対して「**良い物を減税し、悪い物に課税する(GOODS減税・BADS課税)**」という考え方を一層進める必要があります。

2012年、日本で「地球温暖化対策のための税」が施行され、欧州では金融取引税導入への積極的な議論が交わされたことなどは歓迎すべきでしょう。

おすすめメルマガ8 動く→動かす通信 登録：<http://www.ugokuugokasu.jp/joinus/>

10 「派遣切り」「名ばかり店長」「シャッター街」みんな何とかしたい

フランスの脱成長論者、セルジュ・ラトゥーシュは自著の中で、「**経済成長がなければ社会や暮らしが成り立たない**」という「常識」や「神話」から自由になることを提案しています。この考え方は、有機農業運動が1970年ころから目標とし、実践してきた社会像と一致します。埼玉県小川町で有機農業を続けてきた金子美登氏さんは「**小利大安—小さな利益で大きな安心を得る—**」という言葉で表現しました。生きていくために必要なもの、つまり食料・エネルギー・医療を、自然を損なうことなく自給できる地域がどのくらい地域に根付いているか、それがこれからの「豊かさを測る指標」の中心になるべきでしょう。

おすすめメルマガ10 ETIC. メールニュース 登録：<http://www.etic.or.jp/mail/>

お金に意志をこめる・フェアファイナンス入門

日常脱出マニュアル・ステップ1「モノ・カネ・情報のライフスタイル自己診断」では、30のライフスタイルとメルマガを参考に、現代の「生きづらさ」に打ち勝つヒントを提案させていただきました。ミライフ・ポイントが何ポイントであれ、興味を持ったメルマガに登録していただき、NPO やソーシャルビジネスの現場で必要となる問題意識を深める一助にいただければと思います。

ステップ2では、「お金に意志をこめること」をさらに掘り下げます。「公正さを持った金融=フェアファイナンス」という概念を紹介し、グローバルな視点とローカルな視点の両方を紹介します。重要なことは、「エコ=フェア」ではない、ということです。経済成長の手段としての「エコ」もあれば、生物多様性の豊かさを最優先する「エコ」もあり、そこには「フェア」であるかどうかの価値判断は関係ありません。誰かの笑顔や、生き物のすみか、そして将来世代の権利を「奪わない」ことが「フェア」であり、「奪う」ことは「不公正・強欲」です。法律や制度は時代とともに変わります。「フェアであること」は、法律を守ることはもちろん、法律では守れない「公正さ」も問われます。その「公正さ」を問う事が、NPO には求められますし、「おカネ」というアプローチが重要です。

ステップ2「お金に意志をこめる・フェアファイナンス入門・グローバル編」

銀行の投融资方針で決まる若者の未来

私たちがお金を預けている銀行は、私たちの預金をもとに、様々な企業に貸したり投資したりしています。その企業の中には、環境破壊や人権侵害等の社会問題を引き起こしている企業が含まれている場合があります。一方で、銀行によっては、例えば「人権侵害に関わる企業には投融资しない」、「クラスター爆弾の製造を目的とした投融资はしない」という方針を掲げているところもあります。もし、より多くの銀行がそのような方針を掲げ、実践するようになれば、社会問題を引き起こす資金の流れを止め、より良い未来を作っていくことができると思いませんか？

大手銀行に預けたお金の行方を徹底チェックしてみる

銀行はどのような企業にお金を貸しているか、銀行がどのような方針を掲げているかは分かりにくく、ましてや比べたりすることはとても難しいですね。そこでアシードジャパンでは「フェアファイナンスガイド・ジャパン」というプロジェクトを立ち上げ、国内大手銀行の投融资方針について社会性の視点から13テーマ、のべ228項目にわたって調査を行い、銀行の社会性を格付けしました。

例えば、自然環境問題。大規模な森林伐採や、貴重な生態系の破壊を伴う開発プロジェクトには、金融機関から投融资される資金が関わっています。十分に自然環境への配慮がなされていないプロジェクトに対する投融资を拒否することで、金融機関は自然環境の保全に大きく貢献することができるのです。

次に、人権問題も考えてみましょう。金融機関の投融资先となる開発プロジェクトでは、住民の強制立ち退きや事業関係者による住民への脅しなど、深刻な人権侵害が生じているプロジェクトも少なくありません。そのため、金融機関が投融资先の企業に対して人権配慮の徹底を求めることが重要です。国際的な宣言や条約に基づく人権配慮方針、女性や子どもへの特別な配慮方針、先住民族の土地権・資源権への配慮方針を銀行が持つことで、人々に配慮した開発へ誘導することが可能になります。



事例:1 みずほの鉱業のスコア

●評価: 2点 (10点中)

評価基準 28 項目中、10 項目が加点対象となっています。エクエーター原則の署名を通じて、融資先のプロジェクトに対して重要な生態系への悪影響の回避、ILO 中核労働基準の確保、先住民族への配慮、閉山後の生態系修復などを求めています。

●実際には…

人権侵害の問題が指摘されている開発プロジェクト（ボガブライ石炭採掘事業に関与している日本企業に対して融資を実行。また株式を保有しており、投融資先の人権への配慮が適切に実施されていません。掲げられた投融資方針とのギャップについては、先住民族の「自由で事前の情報が十分に提供された上での合意(FPIC)」に基づく土地・資源利用について、適切に実施されていません。

事例:2 三菱UFJの人権のスコア

●評価: 2点 (10点中)

評価基準 11 項目中、3 項目が加点対象となっています。エクエーター原則の署名を通じて、融資先のプロジェクトにおける対して女性や先住民族の人権配慮の方針、苦情処理メカニズム設置を掲げて求めています。

●実際には…

人権侵害の問題が指摘されている開発プロジェクト（バタン石炭火力発電事業、ボガブライ石炭採掘事業、コーラル・ベイ・ニッケル精錬事業、ティラワ特別経済区開発事業）に関与している日本企業 9 社に対して約 2 兆 3487 億円の融資を実行、約 2845 億円の株式を保有しており（2014 年）、投融資先の人権への配慮が適切に実施されていません。掲げられた投融資方針とのギャップについては、先住民族の「自由で事前の情報が十分に提供された上での合意(FPIC)」に基づく土地・資源利用について、適切に実施されていません。

2014年12月公開の格付け結果（130点満点中）

29点: みずほ 27点: 三井住友、三菱UFJ 20点: 三井住友トラスト 4点: りそな

「フェアファイナンス・ガイド」を活用してできる事

- 1 「いいね!」「よくない!」意見を金融機関に伝える
- 2 口座を変える・新たに「エコ口座」を選ぶ
- 3 シェアして広める・「エコ貯金メルマガ」に登録する (P11)

日常脱出! 金融機関を動かすのは預金者の意志

「フェアファイナンスガイド・ジャパン」では、このような社会的観点から銀行の投融資方針を調査して、格付けの結果を各テーマ別に 10 点満点、総合計 130 点満点で得点表示しています。また、その格付けの根拠となる投融資方針も示されているので、どの銀行がよりフェアな方針をもっているか、わかりやすく知ることができます。「フェアファイナンス・ガイド」キャンペーンは国際 NGO キャンペーンで、2015 年 3 月時点ではオランダ、フランス、ベルギー、スウェーデン、ブラジル、インドネシアの 7ヶ国が参加しています。さらにイギリス、アメリカ、デンマーク等の NGO にも参加を呼びかけています。国際的に統一した基準で、預金者の声で金融機関の投融資方針に働きかける取り組みが広がっている背景には、国境を超えるおカネの流れが起こしてきた環境破壊・人権侵害の歴史への反省と、未来への希望が込められています。

ステップ2「お金の意志をこめる・フェアファイナンス入門・ローカル編」

「お金の意志をこめる」とは「地域のいのちの営み」を支えること

ステップ1「モノ・カネ・情報のライフスタイル自己診断」でふれたように、私たち(ヒト)の暮らしは、モノ(資源)・カネ(金融)・情報(メディア)の生産と消費によって成り立っています。どのようなメディアからの情報で判断し、日々の食卓で何を食べ、何を買い、どう働き、どの金融機関に預けるかを考えることのすべてが、つまり「お金の意志をこめる」こととつながることになります。

ステップ2「お金の意志をこめる・フェアファイナンス入門・グローバル編」では、いわゆる都市銀行(メガバンク)5行の社会性格付けを紹介しました。「ローカル編」では、首都圏の地域金融機関の社会的取り組み事例、企業や農家さんによる地域づくりの事例を紹介します。アシードジャパンは、2012年から「都市に生命を・おカネに意志を・地域に愛を」をテーマに、沢山の方々からお話を伺いました。都市部の取り組み、農村部の取り組み、その両方での「お金の意志を」こめる取り組みです。都市銀行に預けたお金が世界中を飛び回るのに対し、地域金融機関を通して預けたお金が、より地域に根差した「いのちの営み」に役立つことになります。

都市に生命を

【1】いまの日本経済における、地域の課題と金融機関の役割とは



高橋一朗氏(西武信用金庫 常勤理事)
グリーン・エコノミーシンポジウム(2012年3月20日開催)より

- 西武信金は中野区に本店を置き東京・埼玉・神奈川をエリアに営業する協同組織金融機関。コミュニティやエコに役立つ取り組みが熱心な信金として有名。

「21世紀になったとたん、少子高齢化が進み人口が増えなくなりました。中小企業がつぶれ学生の就職も思うようにならない時代が来てしまいました。経済低成長時代では大企業も大きな赤字を重ね、海外の企業の資本傘下となることも起こりだしました。地域で預かったお金を、地域にどれだけ融資しているかという比率(預貸率)をみると、信用金庫の全国の比率は50%ちょっと。その他は国債などに振り向けています。今後金融機関は国債の運用だけで食べていくのでしょうか。金融機関はそれだけでは生き残れません。金融機能以外にも、社会的な信用やこれまでの多くの企業とのネットワーク、専門家との連携を使って「つなぎ役」に徹することが、地域の金融機関位一番ふさわしい役割ではないでしょうか。」



【2】農家を応援する!～OKUTAこめまめプロジェクト～



山本拓己氏 (株式会社OKUTA代表取締役社長)

グリーン・エコノミーシンポジウム (2012年3月20日開催) より

- OKUTA は本拠を埼玉県さいたま市に置く建築会社。住宅、リフォームなど。LOHAS Studio を首都圏に13店舗展開し、オーガニックな家づくりをしています。

「2009年から始まった「OKUTA こめまめプロジェクト」は、食料危機時代に備え、有機農家と提携米を確保する「企業の地元である埼玉の有機農業によるまちづくりを支援するプロジェクト」として実施しています。ロハス（人と地球に優しいライフスタイル）な事業をつくりたいという気持ちから顧客とともにエコツアーを実施していく中で、地元の下里農場を紹介され、見学しました。それを機に、有機農家である金子美登氏が作ったお米を会社で買い取ることを始めました。

石油減耗、食糧危機の時代に向けてこのプロジェクトを位置付けていますが、有機無農薬米の調達率などを目標に掲げています。いまは本社が屋上菜園となっていて、園芸部が畑を耕しています。また、田植え、草取り、稲刈りが社員研修カリキュラムに入っています。今後は新規就農を支えていく方針を打ち出しています。CSR（企業の社会責任）が盛んになっていくなか、企業が消費側として参加していくことが大事になっていくのではないのでしょうか。」

【3】大都市に有機朝市を!～オアシス21オーガニックファーマーズ朝市村～



吉野隆子氏 (オアシス21オーガニックファーマーズ朝市村村長)

グリーン・エコノミーシンポジウム (2012年3月20日開催) より

- 吉野さんは名古屋駅直通の商業施設オアシス21で、毎週土曜日に有機野菜や無農薬野菜を中心とした農産物を販売する朝市を運営しています。

「『駅前の人通りを多くしたい』という名古屋市と、『朝市を開催する場所が欲しい』というニーズが一致し、都市の真ん中で有機朝市をすることとなりました。新聞・テレビ・口コミに支えられ、2012年に10年目を迎え、毎回600～1,000人が参加しています。(7割がリピーター) 農家の出店料は1,000円。遠くは岐阜県や三重県から車で販売に来ます。隣接しているビルの社員食堂、幼稚園の給食などでも、朝市村で購入した野菜が使われるようです。直販の利点は多く、自らの農産物に対する消費者の率直な感想を聞けたり、農家同士の仲間意識が芽生えたりするなど、売上げ以外の面でのメリットがあります。現在は新規就農者相談コーナーも設置し、就農者を応援する仕組みを整えています。」

地域に愛を

【4】土を守る!～福島県二本松市で親子代々有機農業を営む



大内督氏 (有機農家)

ソーシャル・エコノミーシンポジウム (2014年10月18日開催) より

- 一度飲んだら忘れられない、人参本来の自然な力強い甘味のある人参ジュースで有名な大内さんの畑は、親子2代で有機農業を営んでいます。

「震災による放射能の影響で、売り上げがピーク時の半分以下に減ってしまいました。でも、実際に土壌と農産物の放射線量を詳細に計測すると、有機質の土は粘土質で、それがセシウムを吸着してくれました。結果として、土壌の放射線量がそのまま農産物に移行しづらくなる事が分かってきたのです。そのころからだんだんと、地元より離れた地域から注文が増えました。でも同年の検査で、二本松地域の米から 500Bq 以上の数値が出たため、再度売り上げが減りました。現在の数値は 0.46Bq まで下がっています。農家と大学が協力しあい、地形や場所、土壌の放射線量、水の放射線量、農産物の放射線量をすべて計測する継続的な作業を続けた結果、少しずつ、相関関係がわかってきています。このような地元の現状を知ってもらおうと、自ら県内外のマルシェに出店し、消費者とのつながりを作り直しています。」

【5】食べることは、農家と土を守ること!～田畑と人々を結び合うための『縁結びのお金』を～



小口広太氏 (農業経営大学校)

アースデイ東京2015オフィシャル勉強会 (2015年1月12日開催) より

- 小口さんは大学講師として有機農業や地域社会学を研究・教育し、農業のもつ「社会性」に注目しています。

「農業はただ食料を生産する手段のみではありません。農業は、生物多様性を守り、障がい者雇用などの福祉や、環境教育としても重要な意味を持っています。そうした農業の『社会性』を鑑みて、農業の重要性を考えるべきです。また、土壌を作るのには何十年という時がかかり、工場のようにすぐに『移設』して同じ農産物を作ることは不可能です(農業の『場所性』)。日本の農業は労働生産性を重視してきましたが、戦後の農政改革で『土地生産性』を重視したアメリカ型の農業へ切り替わっていきます。その過程で、もともと農業に内包されている社会性や場所性を鑑みることが無くなってしまっているのだと思います。そうした中、消費者にできることはたくさんあります。就農する、現地へ行って援農するだけが支援ではありません。『食べて応援しよう』でもいい。都市で暮らしていてもつながることのできる仕組みがあります。人は食べる事を通して、土壌とつながっています。その食べ物を作る営みが農業なのです。農家とつながることは、農産物を育む土壌を守る事につながります。農家との提携によって消費者が支払うお金は、商品交換の決済のためのお金とは異なります。農家の生活を保障するものであり、「農産物を通じて田畑と人々を結び合うための『縁結びのお金』といえるでしょう。」

お金に意志をこめる・フェアファイナンス入門 データ編



【参考】A SEED JAPAN調べ「都市銀行、ゆうちょ、地域金融機関の社会性取り組み事例」

		みずほ銀行	三井住友銀行	三菱東京UFJ銀行	三井住友信託銀行	りそな銀行	ゆうちょ銀行	西武信用金庫	城南信用金庫	多摩信用金庫
エネルギー・温暖化	原発	東京電力への融資額：5818億円超	東京電力への融資額：7595億円超	東京電力への融資額：3490億円超	東京電力への融資額：1500億円超			・声明「原発に頼らない安心できる社会へ」の発表 ・書籍刊行 ・講演会開催 ・東電からエネット(PPS)への電力供給契約切り替え		
	再生可能エネルギー	・地熱発電の資金供給の円滑化をめざし、債務保証制度構築を支援 ・海外での地熱発電事業へのプロジェクトファイナンス ・太陽光発電施設の信託受託への取り組み	・環境配慮型モデル店舗の設置 ・地熱発電(インドネシア)、洋上風力発電(英国)、廃棄物処理発電(英国)や水力発電(ヘルネ)プロジェクト向け融資	・自社で自然エネルギーの活用 ・東北地方を中心とした、メガソーラー発電事業に対するプロジェクトファイナンス	プロジェクトファイナンスなどを通じて再生可能エネルギーの導入を促進	・法人向け再生可能エネルギー応援融資(近畿大阪銀行) ・その他個人向けローン	郵便局などの屋上を利用した太陽光発電事業	・まちエネ大学「東京スクール」への協賛 ・2013年7月、(株)ソーシャルビジネスパートナーズを無限責任組合員、西武信用金庫を有限責任組合員として「地域エネルギー」支援ファンド(第一号投資事業有限責任組合)を設立	・本店・事務センターへのソーラーパネル設置	・「たまでん債」の発行(多摩の市民出資発電に際し、たまでん債で賄いきれない部分は地域金融機関(多摩信用金庫)から融資する契約を締結)
	省エネ	・環境都市プロジェクト(省エネ事業など)	・エネルギー使用量削減について目標を設定して取り組み ・環境配慮型モデル店舗の設置	・省エネ住宅の購入、改築には金利を低減	・環境配慮型住宅ローン・オフィスなどでの省エネを通じたコスト構造の変革と環境対策を提案・環境不動産に関するビジネスラインアップを提供	・環境配慮型住宅ローン ・消費性ローン	・省エネ具体策を示した「エコロジーガイドブック」の作成	・エコキャップ運動を実施 ・クールビズ、ウォームビズの実施	・営業店へのLED照明を導入 ・「節電プレミアム預金」・「節電プレミアムローン」	・環境配慮型金融商品「スーパー住宅ローン」しあわせづくり」「マイカーローン アクセルデュオ」 ・省エネ設備の導入
	農業	・「6次産業化」への取り組み支援 ・「リスクマネー供給(ファンド設立)」「競争力強化のための仕組み構築」「産業知見生かした政策提言」	・大規模六次化農業等を支援する「SMBCAグリフアンド」への出資	・アジア、太平洋地域の若者へ環境保全型の有機農業の研修	・農業に関しては「三井住友信託銀行 調査月報2012年7月号」で詳しく分析	・「農と食の展示・商談会」実施	・農工商連携事業認定支援を活用した新事業創造支援	・農商工連携事業認定支援を活用した新事業創造支援	・農商工連携事業認定支援を活用した新事業創造支援	・農商工連携への取り組みとして、事業者向けのマッチング相談 ・農家視察ツアーを実施
自然環境	・赤道原則の採択と遵守・環境配慮型融資商品「みずほエコアシスト」	・赤道原則の採択と遵守 ・担保不動産に土壌汚染リスク評価義務付け	・「環境経営支援ローン」を展開し、国の補助制度を活用した環境融資商品を提供 ・環境融資の環境負荷削減効果を把握し、その経済価値を試算 ・赤道原則の採択と運用	・環境格付融資制度 ・環境関連債券などに投資するファンドで構成される、グリーン(パランスファンド) ・「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」に賛同、リーダーシップ宣言に署名	・「埼玉りそなの森」「近畿大阪銀行の森づくり」	「JPの森づくり」での植樹・育林活動	・環境対応融資商品、「エコカープラン」、「エコ住宅プラン」を推進	・事業者向けに「多摩ブルー・グリーン賞」の実施		
地域社会	・全国、世界の各地域でボランティア、チャリティラン等に参加	・全国各地で役員が地域貢献活動に参画	・全国、世界の各地域でボランティア、植樹活動等を実施	・シニア向けWebサイト「サクセスフル・エイジング」内で「農の暮らしのすずめ」や「地域に根ざした暮らし」等を紹介	・中小企業支援ネットワーク事業、ビジネスマッチング・「地域産業応援室」の設置(埼玉りそな銀行)	・「ゆうちょ杯ジュニア本因坊戦」、「全日本少年サッカー大会」への協賛	・地域中小企業へ経営課題解決の支援・地域や社会の課題・解決に取り組むNPO団体等を支援する専用商品を取り扱う	・品川区安全安心パトロール協定推進事業協定書への調印・第6回社会貢献活動しながわに参加	・コミュニティビジネスを支援・多摩地域での創業を支援・中小企業のものづくりを支援「新ものづくり補助金」・地域ブランド推進支援	
震災復興	・復興庁「[新しい東北]官民連携推進協議会」発起人・みずほの森プロジェクト	・被災地支援ボランティア・「復興協議会」の開催、仮設住宅での金銭啓発活動	・「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」奨学金プログラム	・社会福祉法人中央共同募金会(東日本大震災復興支援)への寄付信託	・被災地植樹プロジェクト・埼玉りそな高校へ避難した双葉町民へのサービス		平成24年1月16日より、巡回移動図書館「しらうめ号」による支援活動を開始			
NPO支援			・環境教育プロジェクトを支援	・NPOとの対話イベントへの登壇	・2014年、127カ店の社員に、テレビ会議システムを使って「NPO法人勉強会」を開催。		「西武環境保全活動助成金」で環境NPO団体へを支援(平成25年度実績19団体367.6万円)		・たまでん債の発行	
その他	・リバースモーゲージローン(高齢者向け)など ・環境省「21世紀金融行動原則」への署名	・Table for twoへの参加 ・環境配慮評価融資/私募債 ・サステナビリティ評価融資/私募債 ・SMBCECOローン ・環境省「21世紀金融行動原則」への署名	・環境省「21世紀金融行動原則」への署名	・社会的責任投資における企業の気候変動対策の評価 ・環境省「21世紀金融行動原則」への署名	・ダイバーシティ(女性社員活躍・女性顧客サービス)に関する取り組み ・企業年金向けSRIファンド ・環境省「21世紀金融行動原則」への署名	・ゆうちょボランティア貯金(開発途上国支援、環境保全)の実施	・「eco定期預金」の取り扱い ・環境省「21世紀金融行動原則」への署名	・環境省「21世紀金融行動原則」への署名		

※このデータは網羅性や正確な比較を保証するものではありません。空欄は情報が得られなかった項目です。(2015年3月時点)

▼「エコ」は「生命(ライフ)」につながるもの

日本で「エコ」という言葉が使われ始めたのはいつでしょう。少なくとも1990年代からは「エコプロダクツ展」が開催されるなど、企業も「エコ」という言葉を率先して使うようになり、一気に広まりました。今や、エコという言葉は日常で当たり前になっています。もともと「生態学」という意味で使われた「エコロジー」は今や思想や経済など様々なものを表す際に使われる言葉になっています。

でも、なぜでしょう？

温室効果ガスの世界的な排出増加、毎年約4万種以上の生物が絶滅している現状、途上国では8億人もの人々が食糧不足に陥っているといえます。人口は世界的に増えることが予想され、資源は少なくなっていくのに、日本では100円で買えるものがあふれています。

これだけみんなが「エコ」を知っているのに、どうして？

それは、「エコ」という言葉が土から離れて、独り歩きを始めてしまったからかもしれません。だからこの冊子では、生命を育む生産者の営みを「ライフ」と呼んで、それを「エコ」な企業も人も、応援できる仕組みを作ることを目指しています。

▼都市だからこそできる、いのちを大切に暮らす方～買う・働く・貯金する

一つの答えは、それぞれの企業、あるいは一人ひとりの中にある「ライフ・グリーン・ブラウン」な経済の比率を変えていくこと。(右ページ参照) 普段食べるもの、身に着けるものがどうやってできているのか、まずは知ろう。わからなければ聞いてみよう。NGOの調査に協力してくれる企業も増えてきています。いくら環境や人権に配慮したものを買ったとしても、自分のお給料を稼ぐ会社やそれを貯金する銀行がブラウンであればがっかりですよね。せっかく買い物を選ぶなら、就職先や銀行口座も選んでしまおう。そうしたら、次の段階へ。その選択が、土を守り続ける地域の農家を応援することにつながっているのかを、考えてみよう。環境に配慮することで経済成長との両立を目指す「エコ」から、生命を大切にするための「ライフ」な暮らしへ。そのヒントは、まだまだ地域にこそ眠っています。

もっとわがままに、「こうなりたい」未来のために選ぼう。



【写真：エコプロダクツ展2014でフェアファイナンスガイドの説明をする西島事務局長】



生命の持続可能性を第一目的とする
ライフエコノミー

キーワード

協同組合・地域住民主体・地産地消・地域間連携



●日本の有機農業は市場の0.23～0.36%。でも無農薬の田んぼや畑が生物多様性の最後の砦であり、子供たちの学校となっています。

●日本の自然エネルギーは3.2～4%。でも集落単位で見ると岩手県葛巻町など180%を発電している所もあります。

環境と経済成長の両立を目指す
グリーンエコノミー

キーワード

企業のCSR・グリーンインベストメント・グリーンジョブ



●農業や化学肥料の低減に取り組む環境保全型農業者は20%、50m万戸。

●日本の省エネルギーの実績はEUの2倍で「乾いた雑巾」と言われるほどです。でも「シェールガス革命」と呼ばれる安価な天然ガスの登場で、自然エネルギーの推進は期待通りには進まないのが現状です。

環境・人権・社会性を考慮しない
ブラウンエコノミー

キーワード

過度な資源採掘・乱獲・プランテーション



●世界の大豆のうち約75%、とうもろこしの約35%が遺伝子組換え作物です。(米国はそれぞれ94%、88%)しかしその安全性は立証されていません。

●日本は原発輸出を経済外交の柱に据え、トルコやインドなど各国と協定交渉を進めています。その一方で、安全性の審査や廃炉・核廃棄物の処理方法は決まっています。

●**企業にできること**

- ・本業で地域に貢献する。地域の生産者、NPO、行政とつながる。協働する。
- ・食卓を変える。社内食堂や懇親会で生産者とつながる。「小利大安」を目指し、自給を試みる。
- ・情報、カネ、モノの企業規範を「ミライフ」にする。NPOのメルマガを取る。



●**個人にできること**

- ・地域を見直す。地域の生産者、NPO、行政とつながる。仲間を作る。
- ・食卓を変える。「マイファーマー」を持つ。「小利大安」を目指し、自給を試みる。
- ・情報、カネ、モノのライフスタイルを「ミライフ」にする。NPOのメルマガを取る。

●**力を合わせてできること**

- ・農工商連携に取り組む。地域の生活者、生産者、NPO、行政、企業が「元気になる」プログラムを考える。
- ・シンボリックな「市民農園」や「農業公園」を立ち上げ、規模は小さくとも協働して自給する。
- ・市民メディア、市民バンク、有機生産者の力を活用して、地域の課題に挑む。ネットワークを築く。

未来生活 now

都市に生命を
地域に愛を

志金循環

未来は僕らの手の中?

生命と私と経済と

福島の頑張り
東京の責任



A SEED JAPANブックレット

「日常脱出マニュアル～これからのエコとおカネと就職の話」

編集：A SEED JAPAN・未来生活nowプロジェクト（編集責任者：鈴木亮） 制作・レイアウト・印刷：株式会社JMC



国際青年環境 NGO **A SEED JAPAN**

A SEED JAPAN(Action for Solidarity, Equality, Environment and Development/ 青年による環境と開発と協力と平等のための国際行動)は、1991年10月に設立された日本の青年による国際環境 NGO(非政府・非営利組織)です。国境を越えた環境問題とそこに含まれる社会的な不正に注目し、より持続可能で公正な社会を実現するために、未来の世代を担う青年自らが行動を起こしています。現在、環境と金融、生物多様性、資源採掘、エネルギーと温暖化、農業と地域づくり、参加型社会の形成など様々なテーマで活動しています。

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-23 TEL:03-5366-7484 FAX:03-3341-6030

URL: <http://www.aseed.org/> Email: info@aseed.org Facebook: <https://www.facebook.com/aseedjapan>

